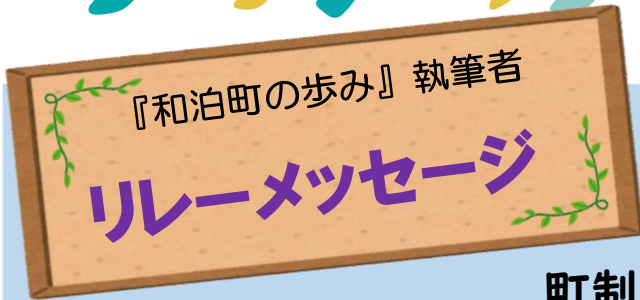


歩み編さんだより

令和5年11月

Vol.17

『和泊町の歩み』編さん事務局発行



和泊町農業の変遷を記述

町制施行後の和泊町編（農業部門）執筆者

大福 勇氏（元和泊町経済課長）



町制施行後の農業の変遷について、作物ごとの盛衰を記述しようと思い、古い資料を紐解いてみた。

戦前から戦後、米軍統治下における農業生産は厳しい自然環境のもと、先人たちはいろいろな知恵、工夫を凝らし、自給自足の社会を築いている。その中で「えらぶゆり」の生産・販売に

取り組み、世界情勢を把握していたことに驚く。

大正・昭和初期にまとめられた輸出ゆりの状況を見ると、当時の人々の暮らしぶりがうかがえる。ゆりを生産・集荷する組織体制や運搬するための道路の改良、栈橋の整備などに、ゆりの取引商社がかかわっている。

復帰後は、国内の経済成長に伴い輸送野菜や切り花、肉用牛に基幹作物のさとうきびを組み合わせた複合経営を定着させ、高収益農業を確立してきた。

農業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、これまでの経験と知恵がこれからの本町農業の道標になれば幸いである。

（右写真は町役場広報担当が撮影した昭和50年頃のサトウキビ収穫の様子）



新城竜一氏（自然編地質学分野執筆者）

大城小・内城小5～6年生に出前講座



「和泊町の歩み」の執筆に携わる専門家が地元の児童を対象に出前講座を開くのは、今回が初。新城氏のご自身の研究の一環として来島し、貴重な学習の場を提供されました。

参加者は国頭字のビシぬ浜を訪れ、地層や岩石を見学しました。海底で噴き出した溶岩が固まったことを示す枕状溶岩の様子や砂岩と泥岩が折り重なった互層の状況、また波打ち際で形成されるビーチロック等について専門的な解説を受け、沖永良部島の成り立ちを学びました。小学6年理科は2学期がちょうど地質学の入門を学習する時期であり、カリキュラムに沿って有効に人材を活用することができました。



大城小6年生が新城氏にあてた礼状。沖永良部島の面白さを改めて知った喜びが伝わってきます。



『和泊町の歩み』編さん室（事務局）

〒891-9112

大島郡和泊町和泊 591 番地

町立図書館 1階 郷土資料室内

TEL：0997-92-3690（役場内線750）

担当：木場浅葱（学芸員）先田光演（執筆編集員）

甲恵子（事務・編集）市来美穂（編集）



まーちもーり

歩み編さん事務局では古い写真や古文書等の資料を探しています。提供いただいた資料は複写した上で必ずお返ししますので、お心あたりの方はご一報を！事務局は町立図書館内です。いつでも、お気軽にお立ち寄りください。

